通視を許さゞるに至る。呼圖壁は人家約百戸、馬隊一旗を置けり。聞く其の北方に、東西約我二里、南北三日程の一大葦湖を湛へ、水草、雜木蓊鬱として人跡を絶ち、長へに猛虎の棲息に委すと。

大葦湖と猛虎の巣窟

昨、一昨共に西北方を指せしも、本日は殆んど西方を指し、呼圖壁、烏庫臺(ウクタイ)、亂山子(ランシヤンズト)、吐呼魯(トルフ)を經て行程約十二里樂土驛(ロートイー)に宿せり。之を二十六日の行程と爲す。此間呼圖壁以西約一里は、楡樹密生し、次で又約一里の沙磧を過ぎ、烏庫臺の東端に到りて再ひ密林を現出し其れより漸次亂山子に近つくに從ひ、其の北側は密、南側は疎、遂に開濶と爲りて樂土驛に入る。

二十七日午前七時出發、塔什河(タシヘ)、保甲店(パオチヤテン)を經て行程約十里瑪納斯(マナス)に到る。道路平坦、地質概ね砂利を交へ車行最も便なり。塔什河には古城址並に空房あり、此より保甲店は左右開濶なるも、保甲店、瑪納斯間は紅柳其他の諸灌木密生林を成し、間々人家耕地水田の其間に點在するを見る。斯て瑪納斯(一に綏來)に近づくに隨ひ、次第に空房壞垣多し。蓋し瑪納斯は同治の回亂前、其の繁華なること、蘭州を凌ぐと稱せられしも、今は人家僅に約七百に過ぎず觀る者をして當時の狀況を忍ばしむ

綏來

瑪納斯の今昔